

## 令和6年度学校評価報告書

### 1 本年度の学校評価について

#### (1) 全体評価より

本年度の学校評価は、各項目について「4：当てはまる、3：どちらかといえば当てはまる、2：どちらかといえば当てはまらない、1：当てはまらない」の4点満点で評価を行い、保護者評価の全体平均は(3.56)、職員評価の全体平均は(3.55)と高評価になった。また、前年度比は、保護者対象が(+0.04)、職員対象が(+0.04)となり、保護者・職員ともに評価ポイントが上がった。

#### (2) 保護者評価より

##### ①評価が高かった項目

###### B重点努力目標

- 9 「緊急時対応訓練の内容、方法の充実」(3.69)

###### Dその他

- 1 5 「個人情報の保護」(3.69)
- 1 6 「日頃からの情報提供」(3.66)
- 1 8 「適正な事務、会計処理」(3.72)

##### ②評価の低かった項目

###### B重点努力目標

- 5 「職員の研修、学び合いの充実と連携」(3.41)
- 7 「地域との関わりづくり」(3.37)

#### (3) 職員評価より

##### ①評価が高かった項目

###### Dその他

- 2 5 「個人情報の保護」(3.82)
- 2 8 「適正な事務、会計処理」(3.80)
- 2 9 「家庭とのきめ細かい連絡」(3.83)

##### ②評価の低かった項目

###### A教育目標

- 4 「教育目標等について保護者に分かりやすく説明」(3.25)

###### B重点努力目標

- 1 1 「学部を越えた学び合いの充実と職員間の連携」(3.12)

#### (4) 改善策

保護者評価、職員評価とも共通して低かったのが、「職員間の学部を越えた学び合いの充実と連携」であった。

これを受け、改善を図るために、以下のように取り組んでいく。

- ① 「職員間の学部を越えた学び合いの充実と連携」については、本校は、小学部・中学部・高等部・名取が丘校と、三学部と一つの分校に分かれて教育活動を行っている。それぞれの学部や分校の特色を生かした教育課程を展開しながらも、小学部と名取が丘校の横のつながりと、小・中・高の縦の系統性も考慮していく必要がある。そのために教科等部会などを充実させ、職員間の情報の共有や共通理解を図る機会や場を設け、更に連携を図っていく。また、学校便りやホームページ

ジ等を活用し、研修等の学び合いの内容や取組の様子について、保護者へ発信し周知する機会を増やしていく。

- ② 保護者からの評価が低かった「地域との関わりづくり」については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、これまで中止や規模を縮小してきた地域との交流行事やPTA行事を徐々にではあるが再開したり、新たに実施したりした活動がある。しかし、保護者への周知及び啓発が不足していると考えられる。

「地域との関わりづくり」に関する活動として、以下の内容が挙げられる。

- ・保護者や地域に開かれた教育活動（防災訓練、アートフルマーケット、高等部作業製品の校外販売やアンテナショップ、尚絅学院大学との交流等）
  - ・地域の人材、資源を活用した教育活動の再構築や新しい取組（地域ボランティアによる絵本の読み聞かせ、フットサル教室や選挙管理委員会などによる出前講座、公民館利用者との交流、高館地域学校協働本部を活用した高館音頭等）
  - ・コミュニティスクールの充実、実践の具体化
- 以上の内容を中心に、保護者や地域・関係機関との協力・連携の強化を図っていく。

- ③ 「いじめの早期発見の取組・安心して学べる環境づくり」については、アンケートでは全体的に見れば低評価ではないものの、数名の保護者は不安・心配だということを回答している。

生徒指導部を中心にいじめに関するアンケート「学校生活アンケート」を生徒と保護者に向けて年2回実施し、面談等での聞き取りも行うなど、いじめの早期発見に努めてきた。アンケート結果については、お便り等を通じて保護者に報告した。今後も、お便りの発行や面談等での聞き取りなど情報交換を行い、いじめの早期発見・未然防止の取組について理解を図っていく。

いじめがあったときは、速やかに組織で対応するとともに、児童生徒の障害や状況等も踏まえた指導や、環境調整を継続して行き、被害児童生徒の安全安心を保証することに尽力した。また、その取組を被害児童生徒や保護者に示すことで不安の軽減に努めた。

## 2 その他

### (1) 集計方法の工夫

昨年度に引き続き、今年度も、保護者・職員ともに Google フォームによる調査回答を実施した（紙面での回答を希望する保護者には回答用紙を配付）。新方式の回答方法を実施したことにより回答率が低下した昨年度の反省を生かし、回答への呼び掛けを工夫・改善した。

→「アンケート回答のお願い」のお知らせを配付し、その後、回答期限が近い時期に、期日までの回答についてメール配信システムを活用し再度呼び掛けた。紙面だけでなく、ふだん保護者が見慣れている配信メールにアンケート回答のリンクを貼って呼び掛けることで、回答率が上昇した（R5年度53.9%→R6年度72.9%）。

### (2) 次年度に向けて

校内学校評価全体会での学校評価・反省を踏まえ、次年度の重点努力目標案を立て

た。その上で、2月の学校運営協議会で、学校評価の報告と次年度の学校経営の基本方針案について協議を行い、承認された。今後は、その具現化に向けて取り組んでいく。